

典拠：

倉林靖・轟沢剛巳『美術評論家連盟と戦後美術の歩み [年表]』『美術批評と戦後美術』、ブリュッケ、2007年
 「年表：出版に見るゼロ年代の批評活動」『芸術批評誌Rear』27、リア制作室、2012年
 『現代日本の批評II』『ゲンロン2』、株式会社ゲンロン、2016年

年	紙媒体の逐次刊行物	WEB上の試み	書籍
1991	浅田彰・柄谷行人編『批評空間』（第1期）創刊（福武書店）（～1994年） 『Radium Egg』創刊（レントゲン藝術研究所）（～1992年）		篠原資明『トランスアート装置』（思潮社） 杉田敦『メカノ—美学の機械、科学の機械』（青弓社） 榎木野衣『シミュレーションイズム』（洋泉社） 港千尋『群衆論』（リプロポート） 高階秀爾『日本美術を見る眼—東と西の出会い』（岩波書店）
1992	『InterCommunication』創刊（NTT出版）（～2008年）		篠原資明『トランスエステティック—芸術の交通論』（岩波書店） たにあらた『回転する表象 現代美術／脱ポストモダンの視角』（現代企画室） 倉林靖『超・文化論：危険を孕むモダン・カルチャー』（日本経済新聞社）
1993	フロッピー・アート・マガジン『JAPAN ART TODAY』創刊（アロアロインターナショナル）（～1995年） 古賀学編『PEPPER SHOP』創刊（～1996年頃） 『ナーダ』創刊（桂書房）（～1995年）		酒井忠康『森の掟—現代彫刻の世界』（小沢書店） 宮台真司・石原英樹・大塚明子『サブカルチャー神話解体』（PARCO出版局） たにあらた『北上する南風—東南アジアの現代美術』（現代企画室）
1994	『批評空間』（第II期）創刊（太田出版）（～2000年） 『10+1』創刊（INAX出版）（～2008年）*2008年にWebへ移行 『Quick Japan』創刊（太田出版）（～現在）		杉田敦『node(ノード)—反電子主義の美学』（青弓社） ロザリンド・E・クラウス著、小西信之訳『オリジナリティと反復』（リプロポート）
1995	浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫編『モダニズムのハード・コア』（『批評空間』臨時増刊号）（太田出版） 拓植響編・発行『Void』創刊（～2001年）	「アートスケープ」創設（DNP出版）	鈴木貞美編『大正生命主義と現代』（河出書房新社） 勅使河原 純『美術館からの逃走』（現代企画室）
1996		山口裕美が「トウキョウトラッシュ」創設（So-net） 中村ケンゴが「Speech Balloon on the ウェブ」創設 中ザワヒデキが「中ザワヒデキホームページ」創設	飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
1997	福住治夫編・発行『あいだ』創刊（～現在）*1994年に発足した「美術と美術館のあいだを考える会」のニューズレター等が前身 山本育夫編『アート・マガジンLR』創刊（リマーク、書肆・博物誌）（～2001年） 『issues』創刊（多摩美術大学芸術学科、アーカイヴ企画室、芸術学研究サークル）（～2002年頃）		南嵩宏『豚と福音—現代美術の純度へ』（七賢出版） 酒井忠康『彫刻の絆—現代彫刻の世界』（小沢書店） 中村政人『美術と教育 1997』（日本美術協会・上野の森美術館）
1998	言水ヘリオ編・発行『etc.』創刊（～2007年）		榎木野衣『日本・現代・美術』（新潮社） 笠原美智子『ヌードのポリティクス 女性写真家の仕事』（筑摩書房） 勅使河原 純『アフター・アートの美術をやめるための美術論』（スカイアド） 牧陽一『アヴァン・チャイナ』（木魂社） 東浩紀『存在論的、郵便的』（新潮社） 杉田敦『リヒター、グールド、ベルンハルト』（みすず書房）
1999	『美術フォーラム21』（麗陽書房）（～現在） 『てんびょう』（アートヴィレッジ）（～2011年頃） 『Saison art program journal : SAP』（セゾン アート プログラム センター）（～2003年）	古谷利裕のブログ「偽日記」開始	北原恵『アート・アクティヴィズム』（インパクト出版会） 尾崎信一郎『絵画論を超えて』（東信堂） 本江邦夫『絵の行方』（スカイアド） 倉石信乃『反写真論』（河出書房新社） 中村英樹『アート・ジャングル』（水声社）
2000	『Diatxt.』創刊（京都芸術センター）（～2005年）*吉岡洋編集長の8号までは『Diatxt』だったが、森口まどか編集長の9号以降は『diatxt.』と改名。 『美術運動史』創刊（美術運動史研究会）（～現在）	紙誌面での『Void』が終了し、メールマガジン「VOID Chicken」へ移行 小崎哲哉編『RealTokyo』創設 東浩紀が「批評プロジェクト」『網状言論』開始	小林康夫・松浦寿輝編『表象のディスクール』（全6巻）（東京大学出版） 高島直之『中井正一とその時代』（青弓社） 建昌哲『未完の過去—モダニズムと絵画』（五柳書店） 斎藤環『戦闘美少女の精神分析』（太田出版） 北澤憲昭『境界の美術史』（ブリュッケ） 上野俊哉・毛利嘉孝『カルチュラル・スタディーズ入門』（筑摩書房）

2001	『批評空間』（第Ⅲ期）創刊（太田出版）（～2002年） 拓植響編・発行『Void chicken』創刊（～2009年頃）＊ TumblrのVOID Chicken Nuggetsは現在も発行中 『aica JAPAN NEWS LETTER』創刊（美術評論家連盟） （～2010年）＊2011年にWebへ移行 遠藤水城『rhythm』創刊（rhythm） 『みづゑ』新創刊（美術出版社）（～2007年）	『アート・マガジンLR』が終刊し、ウェブマガジンへ移行	五十嵐太郎『終わりの建築／始まりの建築』（INAX出版） 高階秀爾『西洋の眼 日本の眼』（青土社） 港千尋『洞窟へー心とイメージのアルケオロジー』（せりか書房） 岡崎乾二郎『ルネサンス 経験の条件』（筑摩書房） 東浩紀『動物化するポストモダン』（講談社）
2002	『photographers' gallery press』創刊 （photographers' gallery press）（～現在） 千葉成夫『徘徊巷』創刊（～現在）	ラジオ番組「村上隆のFM芸術道場」開始（TOKYO FM） ＊ポッドキャストも行われた	松井みどり『アート：“芸術”が終わった後の“アート”』（朝日出版社） 清水穰『永遠に女性的なる現代美術』（淡交社） 暮沢剛巳『現代美術を知るクリティカル・ワークス』（フィルムアート社） 笠原美智子『写真、時代に抗するもの』（青弓社） 市原研太郎『ゲルハルト・リヒター／光と仮象の絵画』（WAKO WORKS OF ART）
2003	『REAR』創刊（リア制作室）（～現在） 藤枝晃雄編『芸術／批評』創刊（東信堂）（～2007年） 小崎哲哉編『ART iT』創刊（アートイット）（～2009年）	『てんびょう』（アートヴィレッジ）終刊しウェブサイトへ移行 「CINRA.NET」創設（CINRA） 北原恵が「Art Activism 視覚文化／ジェンダー研究」創設	五十嵐利治・水沢勉『モダニズム／ナショナリズム』（せりか書房） 中村英樹『視覚の断層一開かれた自己生成のために』（現代企画室） 山下裕二『日本美術の20世紀』（晶文社） 岡部あおみ『アートと女性と映像—グローバル・ウーマン』（彩樹社） 五十嵐太郎『戦争と建築』（晶文社） 林道郎『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』（2009年まで全7巻）（ART TRACE）
2004	山本育夫編『LR Returns』創刊（書肆・博物誌）（～2008年）	「Tokyo Art Beat」創設（GADAGO）	大倉宏『東京ノイズ』（アートヴィレッジ） 平井章一『「具体」ってなんだ？』（美術出版社） 永井隆則『モダン・アート論再考—制作の理論から』（思文閣出版） 中村敬治『現代美術巷談』（水声社） 日夏露彦『日本美術・負の現在』（アートヴィレッジ）
2005	宇野常寛編『PLANETS』創刊（PLANETS）（～現在）	「web complex」創設（北澤憲昭代表「現場」研究会） 「芸術の山」プロジェクトのウェブサイト創設	梶木野衣『戦争と万博』（美術出版社） クレメント・グリーンバーク著、藤枝晃雄訳『グリーンバーク批評選集』（勤草書房） 藤枝晃雄『現代美術の彼岸』（武蔵野美術大学出版局） ジョン・バージャー著、飯沢耕太郎・笠原美智子訳『見るということ』（筑摩書房） 山梨俊夫『描かれた歴史—日本近代と「歴史画」の磁場』（ブリュッケ） 暮沢剛巳『「風景」という虚構』（ブリュッケ） 峯村敏明『彫刻の呼び声』（水声社） 岡崎乾二郎・松浦寿夫『絵画の準備を！』（朝日出版社） 宮下誠『20世紀絵画—モダニズム美術史を問う直す』（光文社新書） ヨシダヨシエ『ヨシダ・ヨシエ全仕事』（芸術書院） 中村英樹『最深のアート／心の居場所』（彩流社）
2006			上田高弘『モダニストの物言—現代美術をめぐる革新と抵抗 1990-2005』（美学出版） 中村英樹『生体から飛翔するアート』（水声社） 光田由里『写真、芸術との界面に』（青弓社） 村上隆『芸術起業論』（幻冬舎） 千葉成夫『未生の日本美術史』（晶文社） 五十嵐太郎『美しい都市・醜い都市：現代景観論』（中央公論新社） 本江邦夫『現代日本絵画』（みすず書房）
2007	表象文化論学会『表象』創刊（月曜社）（～現在）		ハンス・アピング著、山本和弘訳『金と芸術—なぜアーティストは貧乏なのか』（グラムブックス） ハル・フォスター編、樽沼範久訳『視覚論』（平凡社） 深川雅文『光のプロジェクト—写真、モダニズムを超えて—』（青弓社） 香川檀・小勝禮子『記憶の網目をたぐる—アートとジェンダーをめぐる対話』（彩樹社） 岡崎乾二郎『芸術の設計—見る／作ることのアプリケーション』（フィルムアート社） 五十嵐太郎『新編 新宗教と巨大建築』（筑摩書房） 五十嵐太郎『「結婚式教会」の誕生』（春秋社） 塩田純一『イギリス美術の風景』（ブリュッケ） 多木浩二・藤枝晃雄監修『日本近現代美術史事典』（東京書籍） 美術評論家連盟編『美術批評と戦後美術』（ブリュッケ） 宮川淳著、建畠哲編『絵画とその影』（みすず書房）

2008	<p>『Review House』創刊(レビューハウス編集室) (～2009年)</p> <p>東浩紀・北田暁大編『思想地図』創刊(NHK出版) (～2010年)</p> <p>『ARTing』創刊(ARTing福岡)</p>	<p>『10+1』休刊、ウェブサイトへ移行(INAX出版) (～2020年)</p> <p>『Kalonsnet』創設(一般社団法人知識環境研究会)</p>	<p>榎木野衣、蔵屋美香、河田明久、平瀬礼太、大谷省吾著『戦争と美術1937-1945』(国書刊行会)</p> <p>市原研太郎『アフター・ザ・リアリティー 〈9.11〉以降のアート』(Hiromi yoshii)</p> <p>杉田敦『ナノ・ソートー現代美学・・・あるいは現代美術で考察するということ』(彩流社)</p> <p>三頭谷鷹史『宿命と闘った画天使たち』(美学出版)</p> <p>五十殿利治『観衆の成立ー美術展・美術雑誌・美術史』(東京大学出版会)</p> <p>蓮實重彦『ゴダール マネ フーコーー思考と感性をめぐる断片的な考察』(エヌティティ出版)</p> <p>福住廉『今日の限界芸術』(BankART1929)</p> <p>佐々木敦『批評とは何か? 批評家養成ギブス』(メディア総合研究所)</p>
2009	<p>『視覚の現場・四季の結び』創刊(醍醐書房) (～2011年)</p> <p>『橄欖』創刊(瀧口修造研究会) (～現在)</p>	<p>雨宮庸介、佐藤純也、土屋誠一によるプロジェクト『美術犬 (I.N.U.)』開始 *途中から青山悟参加</p> <p>『ART iT』が休刊し、ウェブサイトへ移行(アトイット)</p>	<p>谷川渥『肉体の迷宮』(東京書籍)</p> <p>五十嵐太郎『ヤンキー文化論序説』(河出書房新社)</p> <p>五十嵐太郎『映画の建築/建築の映画』(春秋社)</p>
2010	<p>『ART CRITIQUE』創刊(ART CRITIQUE constellation books) (～現在)</p> <p>永瀬恭一編『組立』創刊(組立) (～2014年)</p> <p>東浩紀『思想地図β』(ゲンロン) (～2013年)</p>	<p>宇川直宏によるライブストーリーミングスタジオ兼チャンネル『DOMMUNE』開局</p>	<p>瀬木慎一『国際/日本 美術市場総観ーバブルからデフレへ1990-2009』(藤原書店)</p> <p>倉石信乃『スナップショット 写真の輝き』(大修館書店)</p> <p>アライ=ヒロユキ『宇宙戦艦ヤマトと70年代ニッポン』(社会評論社)</p> <p>村上隆『芸術闘争論』(幻冬舎)</p> <p>平倉圭『ゴダールの方法』(インスクリプト)</p>
2011	<p>五十嵐太郎編『S-meme』創刊(せんだいスクール・オブ・デザイン) (～2014年)</p> <p>松浦寿夫・林道郎編『ART TRACE PRESS』創刊(ART TRACE) (～現在)</p> <p>『+journal A CRITICAL JOURNAL ON CONTEMPORARY ART』創刊(+journal 制作委員会) (～現在)</p> <p>『アルテス』創刊(アルテスパブリッシング) (～2013年)</p> <p>『las barcas』(las barcas) (～現在)</p>	<p>『aica JAPAN NEWS LETTER』が前年度に休刊し、ウェブ版創刊(美術評論家連盟)</p>	<p>イヴ=アラン・ボワ、ロザリンド・E・クラウス著、加治屋健司・近藤学・高桑和巳訳『アンフォルムー無形なものの事典』(月曜社)</p> <p>中原佑介『中原佑介美術批評選集』(全12巻刊行中)(現代企画室+BankART出版)</p> <p>五十嵐太郎『被災地を歩きながら考えたこと』(みすず書房)</p>
2012	<p>『美術評論誌 MAPPING』創刊(コンテンツポラリーアートジャパン) (～現在)</p> <p>蘆田裕史・水野大二郎編『vanitas』創刊(アダチプレス) (～現在) *第1号は『fashionista』というタイトル。</p> <p>『凶区』(BOOK PEAK) (～2013年)</p>	<p>『Kalonsnet』がオンラインジャーナル</p> <p>『KALONSJOURNAL』創刊(一般社団法人知識環境研究会)</p>	<p>難波祐子『現代美術キュレーターという仕事』(青弓社)</p> <p>港千尋『芸術回帰論』(平凡社新書)</p>
2013		<p>ゲンロン・カフェでのニコニコ動画、Ustreamによる動画配信開始</p>	<p>北原恵編『アジアの女性身体はいかに描かれたか』(青弓社)</p> <p>田中功起ほか『質問する その1 (2009-2013)』(アトイット)</p> <p>草薙奈津子『美術館へ行こう』(岩波書店ジュニア新書)</p> <p>倉林靖『震災とアート: あのと、芸術に何ができたのか』(ブックエンド)</p> <p>東野芳明著、松井茂・伊村靖子編『虚像の時代 東野芳明美術批評選』(河出書房新社)</p> <p>原田裕規編・著『ラッセンとは何だったのか? 消費とアートを越えた「先」』(フィルムアート社)</p>
2014	<p>『疾駆』創刊(YKGpublishing) (～現在)</p> <p>『エクリヲ』創刊(エクリヲ編集部) (～現在)</p>		<p>アライ=ヒロユキ『天皇アート論』(社会評論社)</p> <p>大森俊克『コンテンツポラリー・ファインアート 同時代としての美術』(美術出版社)</p> <p>中ザワヒデキ『現代美術史日本篇1945-2014』(アートダイバー)</p>
2015	<p>『アーギュメント』創刊(岡田真太郎・渋谷ほか) (～2018年)</p> <p>東浩紀『ゲンロン』創刊(ゲンロン) (～現在)</p>	<p>雑誌『美術手帖』の『bitecho』創設(美術出版社) (～2017年)</p>	<p>榎木野衣『後美術論』(美術出版社)</p> <p>『キュレーションの現在: アートが「世界」を問い直す』(フィルムアート社)</p> <p>飯沢耕太郎『現代日本写真アーカイブ 震災以後の写真表現2011-2013』(青弓社)</p> <p>池上裕子『越境と覇権 ロバート・ラウシェンバークと戦後アメリカ美術の世界的台頭』(三元社)</p>

2016	『フィルカル』創刊（ミュー）（～現在）		藤田直哉編・著『地域アート——美学／制度／日本』（堀之内出版） 飯田高誉『戦争と芸術 美の恐怖と幻影』（立東舎） 大谷省吾『激動期のアヴァンギャルド』（国書刊行会） クレア・ビショップ著、大森俊克訳『人工地獄——現代アートと観客の政治学』（フィルムアート社） 酒井忠康『芸術の海をゆく人 回想の土方定一』（みすず書房） 本阿弥清『<もの派>の起源』（水声社） 西野嘉章『前衛誌：未来派・ダダ・構成主義』（東京大学出版会）
2017	きりとりめでる編・発行『パンのパン』創刊（～現在）	「bitecho」が「ウェブ版美術手帖」にリニューアル	ボリス・グロイス著、石田圭子・齋木克裕ほか訳『アート・パワー』（現代企画室） 市川政憲『近さと隔たり/存在する、美術』（書肆山田） 中尾拓哉『マルセル・デュシャンとチェス』（平凡社） 林道郎『静かに狂う眼差し』（水声社） 高島直之『芸術の不可能性』（武蔵野美術大学出版局） ノエル・キャロル著、森功次訳『批評について——芸術批評の哲学』（勤草書房）
2018	丸山美佳・遠藤麻衣編『Multiple Spirits（マルスピ）』創刊（Multiple Spirits）（～現在）		笠原美智子『ジェンダー写真論 1991-2017』（里山社） 白川昌生・杉田敦編・著『芸術と労働』（水声社） 小崎哲哉『現代アートとは何か』（河出書房新） 小田原のどか編著『彫刻 SCULPTURE 1』（トボフィル） レフ・マンヴィッチ著、久保田晃弘・きりとりめでる訳・編・著『インスタグラムと現代視覚文化論』（ビー・エヌ・エヌ新社） アライ＝ヒロユキ『検閲という空気』（社会評論社） アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会編・著『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』（フィルムアート社） 岡崎乾二郎『抽象の力 近代芸術の解析』（亜紀書房）
2019	『須田記念 視覚の現場』創刊（きょうと視覚文化振興財団）（～現在）	「芸術動画」動画配信開始（～2020年中止） 「パーブルームTV」動画配信開始 みそにこみおでん編「レビューとレポート」開始	ロザリンド・E・クラウス著、谷川渥・小西信之訳『視覚的無意識』（月曜社） ハル・フォスター、ロザリンド・E・クラウス、イヴ・アラン・ボワ、ベンジャミン・H・D・ブークロー、デイヴィッド・ジョーズリット著、尾崎信一郎、金井直、小西信之、近藤学編『ART SINCE 1900 図鑑 1900年以後の芸術』（東京書籍） 荒川徹『ドナルド・ジャッド——風景とミニマリズム』（水声社） 平倉圭『かたちは思考する 芸術制作の分析』（東京大学出版会） 卯城竜太・松田修『公の時代』（朝日出版社） 山本浩貴『現代美術史——欧米、日本、トランスナショナル』（中央公論新社） 三田晴夫『教養としての近現代美術史』（自由国民社）
2020		小勝禮子管理・運営「アジアの女性アーティスト：ジェンダー、歴史、境界」創設 南島興編「これぼーと」開始 島貫泰介編「かもべり」開始	長島有里枝『「僕ら」の「女の子写真」からわたしたちのガレリーフォトへ』（大福書林） 清水穰『デジタル写真論：イメージの本性』（東京大学出版会） 中尾拓哉編・著『スポーツ／アート』（森話社） 五十嵐太郎『建築の東京』（みすず書房） クレア・ビショップ著、村田大輔訳『ラディカル・ミュゼオロジー』（月曜社） 飯田高誉『「文明」と「野蛮」のアーカイヴ』（新曜社） 川口幸也編・著『ミュージアムの憂鬱 揺れる展示とコレクション』（水声社） マイケル・フリード著、伊藤亜紗訳『没入と演劇性 デイドロの時代の絵画と観者』（水声社） 沢山遼『絵画の力学』（書肆侃侃房）